

# 第1学年1組音楽科学習指導案

期 日 平成22年10月7日(木) 第5校時

場 所 宇城市立松橋中学校 第2音楽室

指導者 教諭 井上 唯一郎

- 1 題材名 「日本の歌を歌いつごう」(教育芸術社)  
教材 「赤とんぼ」 三木露風作詞 山田耕筰作曲  
「ふるさと」 高野辰之作詞 岡野貞一作曲 黒部美樹編曲

## 2 題材について

### (1) 題材観

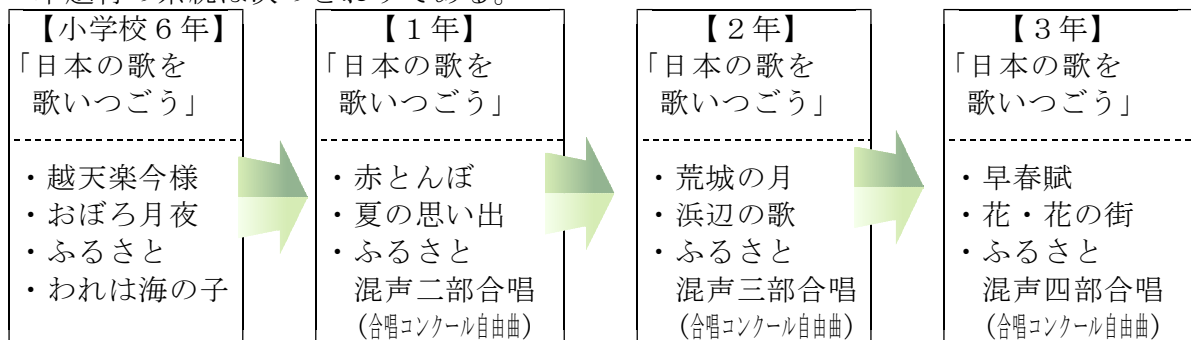
本題材は、学習指導要領のA表現の内容における、(1)ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」及びウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」に関する学習内容である。

人々の生活や心情と深いかかわりを持ちながら、世代を超えて受け継がれてきた日本の歌には、季節や自然などを美しい現象としていとおしんできた日本人の感性が息づいている。心も体も成長する中学生のこの時期に、日本の歌の背景や心情に心を馳せながら学習することは、日本の歌を歌い継いでいこうとする心情を養い、「豊かな情操を養う」という音楽科のねらいに結び付くものであると考える。さらに歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫していくことにより、曲の味わい方が徐々に深まり表現の質も高まっていくと考える。

本教材「赤とんぼ」は、中学校共通教材である。日本の情緒豊かな曲として人々に愛されてきた曲で、拍子や速度が生み出す雰囲気、旋律と言葉との関係などを感じ取り、歌詞が持っている詩情を味わいながら表現を工夫するのに適した曲である。また、「ふるさと」は、小学6年生の共通教材で、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れる教材である。中学1年生では黒部美樹氏の編曲による混声2部の合唱曲へと発展し、1番はふるさとの豊かな情景を、2番は人々を、3番は帰郷の願望を歌っており、イメージを膨らませつつ、合唱の響きにのせて表現を工夫していく教材、そして初めて混声合唱を体験する教材としても適した曲である。

### (2) 系統観

本題材の系統は次のとおりである。



楽曲の基礎となる諸要素については、3年間を通しスパイラルに学習していくように計画している。本学年では速度、旋律や強弱とのかかわりなどの音楽の諸要素に着目し、情景や作者の思いを想像したことと重ねて表現の工夫につなげていく。2・3年ではさらに、それらの諸要素を組み合わせながら、叙情的な歌詞の内容や言葉の特性に着目した表現の工夫へと発展させたい。

### (3) 生徒の実態 (男子18人, 女子18人)

音楽活動に対する意欲は高まりつつあり、歌唱への取り組みにおいては積極的に歌おうとする様子が見られるようになってきた。しかし、歌唱表現においては、女子はきれいな声で歌おうとはしているものの、腹式呼吸を上手く使えず細い声になってしまっている。また、男子は音程を取ることに自信を持たず消極的な声になる生徒も少なくない。

事前アンケートの結果は以下の通りである。(調査人数36人, 複数回答)

Q 1 : 歌うことが好きですか。

	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きでない	好きでない
男子 (3人)	(7人)	(5人)		(3人)
女子 (6人)	(7人)	(5人)		(0人)

◎好きな理由	男子	女子
・歌うと楽しくなるから	(7人)	(9人)
・きれいな声で歌えると気持ちがいい	(2人)	(8人)
・歌が上手になるのがうれしい	(5人)	(6人)
・歌詞の意味を考えることが好きだから	(0人)	(4人)
・その他	(0人)	(1人)

◎好きでない理由		
・歌うのが苦手 (音程がわからない)	(4人)	(1人)
・歌うのが苦手 (音符が読めない)	(7人)	(0人)
・歌うのが苦手 (いい声が出ない)	(7人)	(4人)

Q 2 : これまで歌った「日本の歌曲」で好きな曲を答えてください。(複数回答可)

・さくらさくら (7人)	・とんび (3人)	・まきばの朝 (3人)
・もみじ (6人)	・こいのぼり (6人)	・子もり歌 (2人)
・スキーの歌 (4人)	・冬げしき (2人)	・おぼろ月夜 (5人)
・われは海の子 (5人)	・ふるさと (11人)	

Q 3 : 歌うときに気をつけたり工夫していることについて答えてください。

・きれいな声で歌うこと	ア とても意識している (5人)	イ 意識している (21人)	ウ あまり意識していない (8人)	エ 意識していない (2人)
・音程に気をつけて歌うこと	ア とても意識している (9人)	イ 意識している (20人)	ウ あまり意識していない (5人)	エ 意識していない (2人)
・歌詞の内容を考え気持ちをこめて歌うこと	ア とても意識している (2人)	イ 意識している (17人)	ウ あまり意識していない (12人)	エ 意識していない (5人)
・作った人の気持ちを考えて歌うこと	ア とても意識している (0人)	イ 意識している (15人)	ウ あまり意識していない (16人)	エ 意識していない (5人)

(4) 指導に当たっては、次の点に留意する。

生徒の実態から、日本の歌曲に対する歌唱表現の意欲は低い傾向にあるが、これまで歌った日本の歌曲の中では「ふるさと」が好きと答えている。その理由として日本文化の持つ特徴や味わいにつながると答えていたことから、日本の音楽の感動的な体験が生徒の活動への意欲となるのではないかと考える。また、曲を表現していく過程で、きれいな声で歌うことや音程についてはほとんどの生徒が意識しているが、音楽の諸要素についての意識が低いことから、授業展開の中で、学習の中心に〔共通事項〕を設定し、自分が考えた意見を仲間に伝え、自分たちの歌として創意工夫する能動的な学習の場を設定することで、思考力・判断力・表現力等が高まり、音楽表現の質的向上につながるのではないかと考える。

このことから、以下のような手立てをとる。

- 作詞・作曲者の思いや、曲が出来た背景を視聴覚教材を用いて感じ取らせる。
- 諸要素と詩に込められた思いとのつながりを学習する場面では、教師からの曲想表現ではなく、生徒自身の考えや内面的な感情を引き出す授業を展開するために、〔共通事項〕を基にし、生徒相互の意見交換をすることにより音楽を作り上げる表現力を高める。
- 表現を工夫していく力を伸ばす支援カードを作成する。
- 同じ中学生が表現する歌唱の模範演奏を聴かせ、関心・意欲を高める。

思考力，判断力，表現力等と言語活動

音楽科における思考力，判断力，表現力とは，習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用し，感じ取ったことを表現に生かしたり，互いの考えを伝えあう過程で高まる力のことである。本題材では，音楽表現を創意工夫したり，音楽を聴き価値やよさを考えていく学習過程において，生徒が思考・判断したことを〔共通事項〕を基にして言葉で伝え合う活動を行う。また，そのことを通して，表現力を高めていく。

(人権教育の視点)

道徳の授業と関連させ，ふるさとを思う気持ちや家族を思う家族愛を育ませるため，作品が制作された背景と自分の思いを重ね合わせさせたり，季節の移り変わりや自然の風物の変化などを美しい現象としていとおしんできた日本人の豊かな感性に気付かせたい。

3 題材の目標と評価規準

題材の目標	○歌詞の内容や曲想を感じ取って，歌唱表現を工夫する。 ○速度や強弱の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫する。
音楽への 関心・意欲・態度	・歌詞の意味，背景にある情景や心情，歌詞の構成に関心をもち，自己のイメージや感情を膨らませて歌唱表現することに意欲的である。 ・音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に関心を持っている。
音楽的な感受や 表現の工夫	・歌詞の意味，背景にある情景や心情，歌詞の構成を感じ取り，自己のイメージや感情を膨らませて歌唱表現を工夫している。 ・音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想のイメージを感じ取り，表現を創意工夫しようとしている。
表現の技能	・歌詞の意味，背景にある情景や心情を知り，自己のイメージや感情を膨らませて歌唱表現をする技能を身に付けている。 ・音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に気を付けて歌唱表現をしている。

4 指導及び評価の計画(8時間扱い)

次	時	学 習 活 動	言語活動とその留意点 《学習形態》	評 価 項 目 (方法)
1	1	「赤とんぼ」の歌詞を読み，その意味内容や心情，情景などを感じ取る。 ○情景の想像。 ○正確に音程を取る。	思い浮かんだ情景や心情をノートにまとめさせる。 《個人》	歌詞の内容理解と詩と旋律とのかかわりに関心をもち，意欲的に表現しようとしている。 【関心・意欲・態度】 (観察)
	2 検 証 授 業 I	歌詞の内容をつかんだ上で，表現の工夫をする。 ○強弱記号と作詞者の思いを重ねて表現を工夫する。	強弱記号と作詞者の思いを重ねて表現を工夫することを班ごとにまとめさせる。 《グループ》	歌詞の内容を理解し諸要素(音色・強弱)と曲想とのかかわりを生かして表現を工夫している。 【音楽的な感受と表現の工夫】 (学習シート・観察)

	3	表現の工夫について話し合い、発表する。 ○グループで表現の工夫について話し合い練り上げ発表する。	楽曲のイメージと旋律の特徴が関連していることを確かめ、発表させる。 《グループ→全体》	歌詞の内容を理解し諸要素(旋律・速度・強弱)と曲想とのかかわりを生かして歌唱表現することができている。【表現の技能】 (学習シート・観察)
2	1	「ふるさと」の歌詞を読み、その意味や内容や心情、情景などを感じ取る。 ○視聴覚教材の視聴。	曲への思い、詩の情景などをつかみ考えたイメージをまとめる。 《個人》	歌詞の内容を理解し詩と旋律諸要素(旋律・強弱)と曲想との関連を生かして合唱表現することに意欲的である。【関心・意欲・態度】(観察)
	2	とらえたイメージが表現できるようにパート練習をする。 ○正確に音程をつかむ。	正しい音程で歌うことができるか、パート練習で確認させる。 《パート》	各パートが音程正しく、美しい声で歌唱表現している。 【表現の技能】(観察)
	3	歌詞と強弱との関係をとらえ、表現の工夫をする。 ○強弱記号と作者の思いを重ねて表現を工夫する。	歌詞の内容と強弱記号を関連させ、そのことを基に表現を工夫させる。 《個人→グループ》	歌詞の内容を理解し諸要素(音色・強弱)と曲想とのかかわりを生かして合唱表現を工夫している。 【音楽的な感受と表現の工夫】 (学習シート・観察・発表)
	4	間奏の部分の練習をする。 ○移動ドで練習する。 ○歌詞がない間奏の部分感動的に歌うための工夫をする。	前後の歌詞から、自分だったらこう歌いたいという思いを持たせる。 《パート→全体》	楽曲のイメージを大切にしながらより豊かな合唱表現をしている。 【表現の技能】(学習シート・観察)
	5	指揮や伴奏者を中心に合唱する。 ○合唱全体を創意工夫する。	録音した音源を聴き、気付いた課題を話し合う。 《グループ→パート→全体》	互いのパートを聴き合いながら、今までの工夫を生かして合唱表現している。 【表現の技能】【音楽的な感受と表現の工夫】(学習シート・観察)

### 5 検証授業Ⅰの展開案(第1次 第2時)

- (1) 目標：構成要素や表現要素の働きを生かし、曲想にふさわしい表現を工夫して歌唱する。
- (2) [共通事項]：「音色」・「強弱」
- (3) 展開

過程	学 習 活 動 【学習形態】	T：主な発問・指示等 C：生徒の予想される反応	教師の指導及び評価 【言語活動】	備考
導入 10分	1 前時の学習を確認し「赤とんぼ」を斉唱する。 【グループ→一斉】	T：音程や声の響きに気を付けて、「赤とんぼ」を歌おう。 C：全員で歌った後、男声パートと女声パートで分かれて歌い、最後	○前時を想起するとともに、三木露風氏の思いと情景を重ね、イメージを深める。 ○音色や発声に気を付けて歌うように助言する。さらに、進んで表現する雰囲気をつくる。	教科書  写真

	2 本時の目標を確認する。 【一斉】	に全員で歌う。 T: 曲がより豊かに表現できるように、情景や作詞者の思いを理解して、歌い方を工夫していこう。	○歌詞の内容と歌の表現の結び付きについて考えさせる。 ○具体的な思いを、楽譜の強弱記号の上に記入する等、記入の仕方を説明する。	
<b>三木露風さんの思いを歌で伝えよう。(表現の工夫)</b>				
展 開 35分	3 班に分かれて、表現の工夫をする。 (1) 音楽の諸記号に着目し、どんな思いを重ね表現するかを考える。(10)【個人】 (2) 班で話し合った意見を拡大楽譜にまとめる。 (15)【グループ】  4 話し合ったことをもとに代表班が発表する。 (10)【グループ】	T: まず、前時にイメージしたことを基に工夫することを一人で考えてみましょう。「赤とんぼ」の楽譜に書かれている強弱記号を、どのように表現していけば三木露風さんの思いに近づくかを考えてみよう。 T: いろいろ出てきた意見については、歌って表現を確かめよう。 C: はじめの P はなつかしい風景がぐっと自分の心に迫るように歌う。等 T: まとまった意見は、広用紙に書き込み、工夫したことが伝わるように練習しよう。 T: 工夫したところを、みんなに伝わるように説明して発表してください。 聴いている人は、演奏を全体的にとらえて良かったところを発表できるようにしておきます。 C: 最後の P は、懐かしさを明るくとらえて歌い、心地よく聴こえるように歌いたい。	【言語活動①】 歌詞に込められた思いを考えさせ、強弱記号とどう結び付くのか具体的に考えさせる。 ○物理的な音量のみにこだわらず作曲者が表現したいことや強弱を対比したりしながら楽譜に書き込むよう助言する。 ○知覚と感受の例から選択できるような学習支援シートを用意する。 【言語活動②】 自己のイメージを伝え合ったり、他者の意図に共感しながら意見をまとめていく。 評価基準 (学習シート, 観察) B: 歌詞の内容を理解し、諸要素(音色・強弱)と曲想とのかかわりを生かして歌っている。 A: 歌詞の内容や旋律の流れを感じ取り、工夫したいことを詳細に学習シートに記入し歌っている。 Bに達しない生徒への手立て 学習支援シートをヒントに、表現を工夫するよう支援する。 【言語活動③】 拡大楽譜を提示し、工夫したところを説明してから発表する。 ○それぞれの班への意見・感想などを付箋紙に書いて交換させる。	拡大楽譜  学習支援シート  付箋紙
まとめ 5分	5 本時の学習を振り返り学習シートに感想を書く。 次時の予告を聞く。【一斉】	C: 強弱記号に思いを重ねて歌うことで、歌っていて工夫していることが実感できた。	○次の時間は全班の表現の工夫を発表することを知らせる。	学習シート

6 検証授業Ⅱの展開案（第2次 第2時）

(1) 目標：構成要素や表現要素の働きを生かし、曲想にふさわしい表現を工夫して合唱する。

(2) [共通事項]: 「音色」・「強弱」

(3) 展開

過程	学習活動 【学習形態】	T: 主な発問・指示等 C: 生徒の予想される反応	教師の指導及び評価 【言語活動】	備考
導入 7分	<p>1 前時の学習を確認し「ふるさと」をパート練習する。 【パート→一斉】</p> <p>2 本時の目標を確認する。【一斉】</p>	<p>T: ソプラノとテノールに分かれて歌い、音程の確認をしよう。 C: ソプラノとテノールの二つの場所で練習する。</p> <p>T: これまでの故郷、家族についての思いを振り返り、この曲を自分の心の歌として歌えるような表現の工夫を考えよう。</p>	<p>○それぞれ範唱CDに合わせて歌う。 ○腹式呼吸や表情にも気を付けて歌うように助言する。</p> <p>○歌詞の内容と歌の表現の結びつきについて考えさせる。 ○具体的な思いを、楽譜の強弱記号の下に記入する等、記入の仕方を説明する。</p>	教科書
<p>表現を工夫して、「ふるさと」を自分たちの思いを込めた曲にしよう。</p> <p>音色, 強弱など ⇄ 思い ( )</p>				
展開 38分	<p>3 表現を工夫する具体的な内容を考え、練習する。 (1) 音楽の諸記号に着目し、どんな思いを重ね表現するかをワークシートに記入する。(10)</p> <p>【個人】</p> <p>(2) グループで意見をまとめ、それを拡大楽譜に記入する。(10)</p> <p>【グループ】</p> <p>(3) 歌声に工夫したことが現れるように練習する。(8)</p> <p>【グループ】</p> <p>4 工夫した成果を発表する。(10)</p> <p>【グループ】</p>	<p>T: それぞれの班で、「ふるさと」の歌詞の内容と強弱記号等に関連させて表現を工夫することを考えよう。 C: はじめの mf は広い風景が大自然に広がるように堂々と歌い上げる等。</p> <p>T: まとまった意見は、広用紙に書き込み、工夫したことが伝わるように練習しよう。 C: ピアノ伴奏者は、伴奏に思いが入るよう練習する。また、合唱の支援となるよう教師の指示でピアノを奏でる。</p> <p>T: 工夫したところを、みんなに伝えるように説明して、発表してください。 T: 聴いている人は、演奏を全体的にとらえて良かったところを発表できるようにしておく</p>	<p>【言語活動①】 強弱による曲のイメージや作者の思いを結び付けて、表現の工夫について考えたことをワークシートに記入させる。 ○知覚と感受の例から選択できるような学習支援シートを用意する。</p> <p>【言語活動②】 個人で考えたイメージや思いを伝え、考えを絞ったことを、拡大楽譜に記入させる。 ○リーダーには一緒に歌ったり、班の表現を聴いて指示したりするように促す。知覚と感受のつながりが伝わるか確認しながら練習を進めるように助言する。</p> <p>【言語活動③】 ○拡大楽譜を提示し、工夫したところを説明してから発表に入るようにする。 ○それぞれの班への意見・感想などを付箋紙に書いて交換させる。</p> <p>評価基準 (学習シート, 観察)</p>	ワークシート 学習支援シート 拡大楽譜 付箋紙

		<p>ます。</p> <p>C：1番は、懐かしい思いがうんと膨らむように、やや強くからどんどん強くしていきます。そして楽しかった友達と遊んだ日々を懐かしむように弱くしていきます。</p> <p>C：思いが高まるようなクレシェンドができた。</p> <p>C：もう少し、おなかから声を出さないと伝わらない。</p>	<p>B：歌詞の内容を理解し、諸要素(音色・強弱)と曲想とのかかわりを知覚・感受したことを表現に表そうとしている。</p> <p>A：歌詞の内容や旋律の流れを感じ取り、工夫したいことを詳細に学習シートに記入し、表現に表している。</p> <p><b>Bに達しない生徒への手立て</b> 学習支援シートをヒントに、表現を工夫するよう支援する。</p>	
まとめ 5分	5 本時の学習を振り返り学習シートに感想を書く。 【一斉】	C：強弱記号に思いを重ねて歌うことで、歌っていて工夫していることが実感できた等。	○次の時間は B の間奏の部分を美しく歌うために階名唱を練習し、その部分の表現を工夫することを知らせる。	学習シート